

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	高齢者グループホーム プラタナス三愛	評価実施年月日	平成20年4月
評価実施構成員氏名	東 館 : 中村 永子 ・ 加藤奈緒美 ・ 大川向瑞穂 ・ 大村亜希子 ・ 秋田好絵 ・ 枝 啓子 ・ 園 文昭		
記録者氏名	中村 永子	記録年月日	平成20年5月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を廊下に掲示している		申し送りなどで、もっと話し合っていく必要がある
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	廊下に掲示し周知している		ネームプレートに入れ、いつでも目を通せるようにしている
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	理念を廊下に掲示し周知している	○	地域の方々に伝える機会が少ないので、検討していきたい
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会長・老人クラブ百寿会・民生委員とのコミュニケーションをとっている。又、近隣を散歩したりする時、こちらからの挨拶を心がけている	○	気軽に立ち寄れるイベントを行って交流を図りたい
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りに参加させていただいている	○	ボランティア等を取り入れ、地元の人々との交流の場を広げいきたい
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	今のところそこまでの、取り組みには至っていない。		入居者やスタッフのニーズや能力により、何が出来るのか検討する必要がある

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>毎年自己評価を実施し、仕事の取り組み姿勢を見直しを行っている</p>	○	外部評価の実施
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議で様々な意見をいただいている。</p>	○	サービス向上に繋げていきたい
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市役所介護保険グループ担当者等の運営推進会議は勿論のこと登別ケアマネ会に積極参加し行政との関係を構築しているので不明な点があれば連絡し指示をいただいている</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>ケアマネ会の講習研修を受けている。又、道社協福祉協議会の生活支援講習で学んでいる。</p>		MSW.PSWがいるので全スタッフが学べる機会を設けていきたい
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>生活のうえで、何が虐待になるのか等考え話し合い防止に努めている。常々、包括支援センターと連携し情報収集している。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>説明を行い理解し、納得していただいている</p>		認知症の家族教育
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p> <p>面会等の際にご家族に声を掛け、現在の状況や意見を伺っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月一言手紙を出している。又、緊急時には電話連絡を行っている		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が面会の際に、話を伺ったりして苦情処理対策委員会の設置、外部への苦情連絡先の掲示をしている		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月2回のミーティングで仕事の内容や入居者に対してのサービスについて話し合っている		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事などに合わせ勤務調整を行っている		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職が起きた場合、入居者に影響のないように心がけている	○	スタッフの確保と育成に努めていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	スタッフの質の向上を目指し、必要な研修などあれば全スタッフが勉強できる環境を作っていきたい
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	休憩時間を取れるよう配慮していく
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		法人の全職員が人事考課を行い評価、成果物を提出している。一年を通して各自達成できる目標をたて、達成できるよう指導している
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		不安な事や不穏状況の原因など、行動やちょっとした話の中から受け止められるよう努力している
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		入居前に現在の状況などを伺い、話し合えるよう努力している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	対応困難な場合は、担当ケアマネ、ケースワーカー等と相談し対応している		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族や本人の要望を入れ、本人が安心して馴染めるよう努めている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	エコマップや生活歴からも学ぶことが出来る。個人の持つ能力が活かせるよう、本人のペースに合わせる様にラポールを作っている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会の際に日常生活の出来事を話、助言をしていただいている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族面会の際、家族が不愉快に思える事は言葉を選びながら分かりやすく説明している		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも面会可能。必要に応じドライブしながら一緒に出掛ける場を作っている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	意識した見守りを行い入居者同士のトラブルが起きないように、居場所や一人一人の状況を確認している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	法人全体で保健師・PSW・MSWその他コ・メディカルスタッフの協力を仰ぐことが出来るので社会資源の活用がスムーズに出来る。目下の所、利用契約終了の原因が入院が多く病棟の看護師などに状況を確認している		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	フェスシート・エコマップ作成時に利用者ご家族から希望を聞いている。極めて自分の希望を訴える方は少ないが行動など観察し何を望んでいるか考え対応している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族から情報収集し、安心してホームで暮らせるよう努めている		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	記録に残し、一人ひとりの状況など把握できるよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的な見直しの他に、必要時にケアを見直しを行っている。ご家族にも相談し、介護計画を作成している	○	本人の希望を訴える方は少ないため、もっとご家族との意見交換を行ってきたい
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ミーティングなどの際に話し合い、モニタリングを行い計画時に取り入れている	○	担当者会議への家族参加が少ない為、都度意見を伺ったりなどしているが、会議への参加を呼びかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録に残し、評価することで次の計画に活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族面会の際、希望に応じ居室での食事や誕生会出席への連絡をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	三味線や手芸などのボランティアを入れ交流を図っている	○	地域のサービスをもっと活用していきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	希望があれば必要に応じ検討していきたい	○	地域のサービスをもっと活用していきたい
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	同一法人に包括支援センター運営しているので必要性がある場合は話し合いを持ち連絡を取り合っている		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援をしている。	運営が医療法人にて管理者(院長)が来設しているので、必要に応じ受診相談を行っている		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医により定期的に診断を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的又は必要に応じ診てもらい健康管理を行っている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院できるよう、担当医、ご家族、ソーシャルワーカーと情報を共有している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	月1回法人併施設設会議がもたれ、看取りの看護・介護と重度化になった場合、医師、スタッフ・家族と話し合いが出来るようになってきている。	○	ケア方針を確認し、ホームでの暮らしを支えていきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期の場合の支援の取り組みについては医の倫理・職業倫理の中で話し合われかかりつけ医と家族間で話し合われる体制あり	○	認知の進行や身体機能の低下もある為検討していく必要がある
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ほとんどが入院によるものであったため実施していないが、社会資源の活用十分可能。又、入院の際は必ず情報提供を行っている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人一人の生活歴を把握する事に心掛けている。入居者の状況に合わせ、声掛けを工夫したりプライバシーを損ねないように努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の表情や行動から何を望んでいるか考え、自ら自己決定できるよう声掛けを行っている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者が何を望んでいるか見極め支援している。散歩に付き添い、入居者のペースを大切にしているが、その日によってはやはりスタッフの都合になってしまう事もある		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人からの希望を大切にしているが、訴えがないためスタッフによる声掛けで促している		美容教室
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立も工夫し、入居者と一緒に準備し片付けしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の好みに応じ、飲み物やお酒など提供している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	オムツ使用者の排泄パターンを把握し、不快にならないよう気配りをしている。又、病名からも行動観察を行い失敗のないよう誘導を行っている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	自ら入浴希望はないため、声掛けし希望を伺い行っている。又、拒否する方にも声掛けを工夫し気持ちよく入浴できるよう配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援 している。	消灯時間を設けている。個室のた め他入居者に迷惑にならないか ら自由に過ごしている。消灯過 ぎでも自室に戻らない場合は、 一緒に過ごし臨機応変に対応を 行っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの 支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をして いる。	食器洗いや盛り付けなど、個々 にできることを行っている		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	家族と相談し希望に応じ管理さ せていただいている		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援している。	ちょっとした会話の中で、その 日の過ごし方を考えドライブや 散歩、日光浴など行っている		
62 ○普段行けない場所への外出 支援 一人ひとりが行ってみたい普 段は行けないところに、個別 あるいは他の利用者や家族と ともに出かけられる機会をつ くり、支援している。	ご家族が参加できる行事を行 っている		身体機能の低下が見られ、困 難になってきているため検討 していく必要がある
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取 りができるように支援をして いる。	希望があれば電話使用可能。 操作困難な方には支援して いる		
64 ○家族や馴染みの人の訪問 支援 家族、知人、友人等、本人の 馴染みの人たちが、いつでも 気軽に訪問でき、居心地よく 過ごせるよう工夫している。	ゆっくり過ごしていただける よう場所を提供しお茶を出し たりなどしている		
(4) 安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束0を基本に拘束をしないケアに取り組んでいる		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関自動ドアの位置を工夫して目先を変え日中、玄関は開放している。外に出て行く際は見守り、付き添いを行っている		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に入居者の行動を観察し所在を確認し合っている		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態に応じ、異食行為等を起こさせないように洗剤、はさみ等の保管、管理をしている		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個人の状況に合わせ、どんな事故が発生しやすいか話し合い介護計画に繋げている。発生した事故に関しては報告書を作成し記録として残している。本院のリスクマネジメント会議、医療安全会議に参加		院内学会セフティーマネジメント研修に多く参加させる
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルにて対応できるようにしている	○	マニュアルにそって対応出来るよう、全スタッフ向けの勉強会を開き意識づけしていきたい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練を行っている。協力体制も整っている	○	連絡体制を意識づけていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている。	面会の際、現在の状況や今後起こり得るリスクを説明し、事故を防げるよう話し合い 実施している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている。	一人ひとりの状況を把握し、早期発見に努め必要に応じ受診を行っている。又、記録 に残すことで情報を共有している		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の確認に努 めている。	用法や要領を理解し、服薬は毎食スタッフが支援している		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身 体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分を摂ってもらえるよう食事を工夫したり、牛乳やヨーグルト等提供しているが困難 な方には、医師と相談し下剤を処方していただき排便チェックを行っている		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎 食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた 支援をしている。	毎食後、声掛けし歯磨き、うがいをを行い困難な方には介助している		併設歯科・口腔外科があるので口腔指導を受ける
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量が少ない方には記録とし残し、他の物で補えるよう努めている。又、法人の管 理栄養士により栄養指導を受けている		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めが あり、実行している(インフルエンザ、疥癬、 肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防、対応マニュアルを作成し、インフルエンザの予防接種をスタッフ、入居 者は行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具・まな板・包丁・食器類等の除菌。食材は賞味、消費期限を守り、前日又は当日に配達・購入している。保管は冷蔵庫、冷凍庫使用		本院の感染研修を受ける。特にノロウイルス等の研修を意識させる
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節に応じ玄関先にプランターにお花を植えたり等し工夫している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の状況に応じ、BGM音楽をかけたり、カーテンで不快な光を遮るにしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者一人ひとりが自由に過ごせるよう配慮している		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	快適な過しやすい広い部屋の空間の中、一人ひとり使い慣れた家具や写真を飾っている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計、湿度計を利用し快適な温度調整を行っている。意識管理の下で窓の開閉、暖房の調整を行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下の両脇には手すりを設置し、トイレ、浴室内も必要な部分には安全を考え設置している		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの話を傾聴し、理解できるよう説明し、残存機能を見つけだし自立した生活が送れるよう支援している		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭のテラスを利用し、天気の良い日には食事をしたり日光浴を行っている。小さいが畑もあり、菜園や花畑を作っている	○	天気などにも左右され、畑がきちんと作れていないため活動しやすく環境を整える必要がある

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない <ul style="list-style-type: none"> ② 意志疎通困難な入居者もいる
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない <ul style="list-style-type: none"> ① 昼食後などお茶を飲みながら、過ごす時間がある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <ul style="list-style-type: none"> ② ペースに合わせて接している
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <ul style="list-style-type: none"> ② その日の状況によって、全員とはいえない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <ul style="list-style-type: none"> ③ 意思疎通の困難な方もいる。スタッフの勤務状況により出掛けられない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <ul style="list-style-type: none"> ① 母体が法人のため、連携体制は整っている
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない <ul style="list-style-type: none"> ① 体調などを観察し安心して生活が送れている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない <ul style="list-style-type: none"> ② 面会の際に状況を話し合っている
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない <ul style="list-style-type: none"> ③ ご家族の面会はあるが、友人や知人の面会は年数回である

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p>	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p> <p>② 増えていると感じたい</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p>	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>② 全員とはいえない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>② ①としたいが、意思疎通困難な方もいる</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p>① そうおもいたい</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】 母体が法人のため、急変時には連携体制はできている。 常に入居者一人一人のニーズに応じサービスを提供している